

(別添3)

【桜川市】 校務DX計画

【現状】

本市では、校務支援システムを活用した資料のデータ配信や個人連絡を行い、ペーパーレス化や業務のデジタル化、電話業務の削減など教員の働き方改革の促進に取り組んできた。「GIGAスクール構想の下での校務DX化チェックリスト」による自己点検の結果、県内平均を上回る得点だった一方で、学校との各種事務手続きのペーパーレス化や教育委員会が学校に発信する調査や通知のデジタル化が一部で進んでおらず、課題が残っている状況である。

このような課題の解決に向けて、例外的にデジタル化ができないと考えられる業務以外については、引き続き業務のプロセスを見直し、校務DX化を図っていきたい。

また、「GIGAスクール構想の下での校務の情報化に関する専門家会議」の提言を踏まえても、これらの課題について早急に解決に向けて検討が必要と捉えている。

【課題と取組方針】

現状と課題から、下記の通り校務DXの推進を図っていく。

(1) クラウドツールの活用

生徒の欠席・遅刻等に関する保護者とのやりとり、学校からのお便り等、学校と保護者を結ぶクラウドツールの定着化が進んでおらず、電話対応や書類の印刷・配布など教職員の負担となっている。

クラウドツールの定着が進んでいない背景として、用途により使用するツールが複数存在していることが要因の一つと考える。これらのツールを見直し、集約化を目指すことで、活用の定着を図り、保護者からの欠席・遅刻等による電話対応、紙媒体でのお便りの配信を削減し、業務負担軽減を目指す。

(2) FAXでのやり取り・押印の見直し

本市では、FAXは原則使用しない方針とし、業者等とはメールを使ったやりとりなどで対応できないかを継続的に働きかけていく。

押印については、無くせないもの、無くせるもの又は代替できるものを区別し、押印の文化をなくしていく。県や教育委員会の制度によるものの場合、関係者と協議して見直しを図っていく。

(3) 校務支援システムへの不必要な手入力作業の一掃

本市で導入している校務支援システムは、児童生徒の名簿等の情報入力をExcelファイルで可能であるため、個人情報ファイルの取り扱いに留意し、引き続き不必要な手入力作業の一掃を促進していく。

(4) 業務の抜本的な見直し

先述のとおり、学校との各種事務手続きのペーパーレス化や教育委員会が学校に発信する調査や通知、校内での文書回覧など一部においてデジタル化が進んでいないため、引き続き校務支援システムを利用した電子データでの配信やクラウド上でのアンケート機能の活用に取り組むことでペーパーレス化を図る。